日刊 動労千葉

84. 3. 30

No. 1605

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

"働き不足のクリアー…"を叫んで 3月末裏切り妥結に走る動労「本部」弾劾

動乗勤改悪阻止闘争の勝利のために シリーズ5

「日刊動労千葉」は四回にわたって、動乗勤改悪の問題点について具体的に明らかにしてきました。

すなわち、動乗勤改悪は、乗務員にすさまじい労働強化をもたらすことをとおして、大量の要員削減・ロングラン・基地統廃合への大攻撃をもたらすだけでなく、全職種の勤務制度改悪―労働強化の突破口として、国鉄二〇万人台体制＝凶暴なナマ首切りの攻撃―国鉄労働運動破壊を狙った恐るべき攻撃といえます。

本「シリーズ」の最後に、動乗勤改悪―60・X実施にむけ、最初から当局と完全一体となって三月末裏切り妥結に全力をあげている動労「本部」革マルの犯罪性を暴露、弾劾することとします。

「給与と勤務の問題」と歪曲して 率先受け入れした動労「本部」

動労「本部」革マルは、当局の昨年「六月末決着」の攻撃に早々と屈服して受け入れ、第六回全国戦長会議（83・6・17）において「指摘されている働き不足についてもクリアーする以外にない」なる裏切り方針を決定し、「六月末妥結―59・2ダイ改と同時実施」を策動しました。

そして、国鉄労働者の怒りのまえに、当然にも粉砕されたにもかかわらず、職労一九五号をもって労組法十五条による協定破棄手続きを行ってきている当局と一体となり、またしても「本年三月末妥結」を強行しようとしています。

動労「本部」第一二二回定中委（三月二日～三日）の論議は、何ひとつ闘う姿勢を示していません。すなわち、動労「本部」革マルは、動乗勤改悪の恐るべき攻撃を「給与と勤務に関する問題」に歪曲し「勤務問題やダイヤ作成基準などは進展した、あとは賃金関係だけ」と称して全面受け入れを方針化しており、当初より誰よりも率先して「片仕切り」し、全組合に強要することのみをこの一年間追求してきたのです。

まさに「当局の先兵」と言わずして何と言えるでしょうか。

「割増賃金」でごまかし、労働強化に率先協力

動乗勤改悪を「給与」の問題とことさら主張することは、何を意味しているのでしょうか。

それは「割増賃金は換算制の廃止に伴って超勤手当、夜勤手当などの検討を」と主張していることに端的にあらわれているように、法内超勤を割増にしてくれさえすれば、ロングランだろうとどんなに労働強化になろうと、そして基地統廃合につながろうと、受け入れるということなのです。

わずかばかりの「割増賃金」で、労働者の権利を売り渡し、奴隷のように働くことを強制しようというのです。

国鉄労働者に虫けらのようになれという動労「本部」革マルを断じて許すわけにはいきません。

「過員」づくりの元凶こそ「働こう運動」だ

動労「本部」革マルは、日帝・臨調の国鉄労働運動解体攻撃にいち早く屈服し、「働こう運動」をもって次々と合理化に協力してきました。

今日、全国で三万名にも及ぶ「過員」が生み出され、強制配転＝首切りの攻撃にさらされています。そして、その元凶こそ、動労「本部」革マルの「働こう運動」―「職場と仕事と生活を守る」と称して臨調攻撃を自らの手で実践していく反動方針に他ならないのです。

従って、動乗勤改悪という動労が多数を占める乗務員＝動力車職場を直撃する攻撃に対しても、彼らは「働き不足をクリアーすべき」と叫んで全組合員の怒りの反撃を必死におさえこんで、一貫して妥結のみを追求してきたのです。

「動労・佐藤委員長」は三月十四日付動力車新聞の中で、はからずも「職場と仕事と生活を守る」が〝ユーレイ〟方針であり、闘わないためのペテン的スローガンである事を認めてしまっています。

もはや、動労「本部」革マルを職場から一掃する以外に、動乗勤の改悪を粉砕し、国鉄労働者の生活と権利を守ることはできません。

当局の先兵として「三月末妥結」になりふりかまわず、血道をあげる動労「本部」革マルの「片仕切り」を許さず動乗勤改悪を阻止しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！